校長室より

校長　西里　俊文

「絵本の読み聞かせ」

１１月６日(水)　出前テレビ局委託事業として、ABA 朝日放送アナウンサー服部未佳さんをお招きして、絵本の読み聞かせとアナウンサーの仕事についての講話をお願いしました。

服部アナウンサーは、以前「手話で GO」というコーナーを担当され、私が当時勤務していた青森県立八戸聾学校でご一緒し、そのとき以来、様々な場面でお世話になっています。

服部アナウンサーがお見えになると、「テレビで見たことがある！！」と子どもたちの反応です。子どもたちの反応に、素敵な笑顔で答える服部アナウンサーがいました。

絵本の読み聞かせが始まると、子どもたちは服部アナウンサーの素敵な語りかけに引き込まれ、絵本に釘付けでした。服部アナウンサーが「からすのパンやさん」の絵本を読み進めていると、生徒の一人が立ち上がって、絵本を指さしました。服部アナウンサーは、すかさず「何のパン？」と言いながら、生徒の気持ちに寄り添って会話を始めます。すると、幼稚部や小学部、中学部の子どもたちが自然と絵本の前に集まり、絵本に描かれているパンを指さしながら、自分の好みのパンを服部アナウンサーに教えています。あっという間に、絵本と服部アナウンサーは、本校の子どもたちに囲まれました。

その様子を見ながら、私は絵本の読み聞かせの素晴らしさを改めて感じました。

絵本は読み聞かせる側が、聞いているこどもにあわせて、間合いをとったり、「どうなるのかな？」と次の展開を問いかけたりすることができます。１ページ１ページが動画のように連続して続いていない点も、こどもの想像力を駆り立てるのには最高です。そして、絵本を介在しながら、読み聞かせる側と聞いているこどもとの間で心のキャッチボールができます。それは、絵本という素材を、双方で着色しているようで、オリジナルの脚本を描くようです。そこには、更に豊かな心の世界が作り上げられていくのだと思いました。

現代社会においては、情報機器の発達により小さいこどもの頃からタブレットやスマートホンに触れ、動画配信サービスを見て育つ子どもも多くなりました。動画配信の良さを認めつつ、アナログの絵本の良さも忘れずに、効果的に子どもたちの心の成長発達に使っていくことが大切ではないかと服部さんの読み聞かせの様子を見ながら、思いました。

なお、ABA 青森朝日放送のアナウンサールームに服部アナウンサーブログがあり、今回の様子が載っております。

https://www.aba-net.com/announcer/ana-diary/hattori/